

OTC類似薬の保険見直しと 現場への影響について ～薬剤師の立場から～

OTC類似薬の追加負担を含む「健保法改正案」
廃案を求める緊急決起集会

< 発言の内容 >

< はじめに >

1. 医療費削減効果とその限界
2. 「軽症は自己責任」という前提の問題
3. OTC乱用と副作用リスクの拡大
4. 価格高騰と患者負担
5. 医薬品供給への影響
6. 言葉のわかりにくさという課題
7. 制度の複雑化と現場負担
8. 対象範囲拡大のリスク
9. 本質的な問題：医療のあり方

< おわりに >



<はじめに>

- 今回の制度は「保険除外」ではなく「追加負担」という形が取られています。
- しかし実態としては、患者に新たな自己負担を求めるものであり、結果的には保険給付の範囲を狭める、いわば“見えにくい給付縮小”であると考えます。
- 制度の形は変わっても、医療保障の後退という本質は変わっていないのではないのでしょうか。



1. 医療費削減効果とその限界

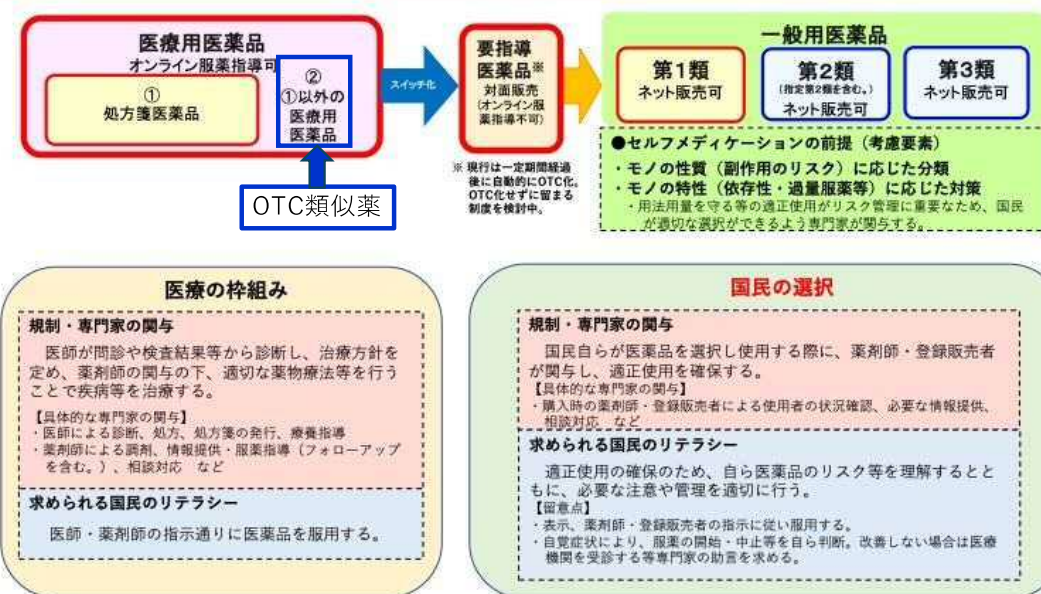
- 今回の見直しは医療費の適正化を目的としていますが、その削減効果は数百億円規模とされており、医療費全体から見れば極めて限定的です。
- 一方で、患者に生じる追加負担はそれ以上に大きくなる可能性があります。
- さらに重要なのは、その負担増が患者の行動を変化させる点です。
- 「受診控え」、「服薬中断」これらが起きれば、症状の悪化や重症化につながり、結果として医療費全体が増加する可能性があります。
- 短期的削減が長期的コスト増につながる懸念があります。

2. 「軽症は自己責任」という前提の問題

- 制度の背景には「**軽症は自己判断で対応する**」という考え方があります。
- しかし現場では、軽症に見える症状の中に**重大な疾患が隠れている**ケースは決して少なくありません。
- 自己判断に委ねることで**診断機会が失われる**ことは、医療安全の観点からも大きな問題です。
- 医療への入口を狭めることは、**安全性の低下**につながります。



医薬品の分類と販売規制・国民リテラシーの関係について



3. OTC乱用と副作用リスクの拡大

・OTC医薬品の使用増加に伴い、以下のリスクが懸念されます

- ①解熱鎮痛薬・咳止めなどの**オーバードーズ**（乱用）
- ②複数薬剤の併用による**重複投与**
- ③高齢者を中心とした**副作用の増加**



・特に、医療者の関与が弱まることで、**安全性の担保が難しく**なる点は重大です。

< 民医連医療機関から報告されたOTC類似薬の副作用 > (2020年4月～2025年3月：5年間)

	副作用 件数	重篤な 副作用	重篤な副作用症例	医療用薬 価格(円)	OTC薬 価格(円)
ロキソ [®] ロフェン錠 (解熱鎮痛)	82	14	発疹、消化管出血、急性腎不全、アナフィラキシー	10.4	58
アセトアミノフェン錠 (解熱鎮痛)	55	11	発疹、肝障害、消化管出血、呼吸困難	7	58
酸化マグネシウム錠 (便秘薬)	30	5	高マグネシウム血症、不整脈、意識障害	17.1	51
芍薬甘草湯 (こむら返り)	35	6	血圧上昇、低カルウム血症、間質性肺炎	26	120
メジコン (咳止め)	10	2	アナフィラキシー	17.2	66

* 1 医薬品の価格は15歳以上の1回服用量で比較。医療用薬は2025年薬価、OTC薬は希望小売価格（小包装）

* 2 漢方薬は医療用とOTC薬で分量に差異あり

4. 価格高騰と患者負担

- 保険診療では薬価が統制されていますが、OTC市場では価格は自由です。
- そのため、
 - ①同一成分でもOTCの方が高額となる場合
 - ②継続使用による家計負担の増大が想定されます。
- 医療費削減の一方で、患者負担は確実に増加します。



5. 医薬品供給への影響

- 現在も医薬品の供給不安が続いている中で、OTC需要の増加は以下の影響をもたらす可能性があります。
 - ①需給バランスの崩れ
 - ②一部製品の不足
 - ③供給のさらなる混乱
- 「必要な人に必要な薬が届かない」リスクが現実化する可能性があります。



6. 言葉のわかりにくさという課題

- 今回の「OTC類似薬」という表現は、一般の国民にとって非常にわかりにくいものです。
- これは過去の「長期収載品」の議論でも同様でした。
 - ①制度が複雑
 - ②用語も専門的
- その結果、十分な理解がないまま制度が進む危険性があります。
- 制度は本来、国民の理解と納得の上に成り立つべきものであり、
- 用語のわかりにくさ自体が制度設計上の問題です。

7. 制度の複雑化と現場負担

- 今回の仕組みは、
 - ①保険給付
 - ②追加自己負担が混在する複雑な制度です。
- その結果
 - ①患者にとってわかりにくい
 - ②医療現場の説明負担が増大現場に新たな負担を押し付ける構造となっています。



8. 対象範囲拡大のリスク

- 現在は限定的な対象ですが、今後
 - ①適用範囲の拡大
 - ②「他の薬も同様に」という議論が進む可能性があります。
- 一度導入されると、保険給付の縮小が段階的に進む懸念があります。



9. 本質的な問題：医療のあり方

- この問題は単なる薬剤費の見直しではありません。
- 問われているのは：
 - ①医療の公共性をどこまで維持するのか
 - ②自己責任の範囲をどこまで広げるのか
- つまり、「医療をどこまで社会で支えるのか」という根本的な問題です。



<おわりに>

- 医療は単なるコストではなく、**人々の健康と生活を支える基盤**です。
- 短期的な財政効果だけでなく、
 - ①**長期的な健康影響**
 - ②**社会的コスト**を含めた**総合的な視点が必要**です。
- 今回の健康保険法の改定、特にOTC類似薬の追加負担については、現場や患者への影響を十分に踏まえ、拙速に進めることは、多くの問題点があり、大変危険です。

<おわりに>

- 本制度は、**健康保険法の理念を後退させ、医療アクセスの制限と健康格差の拡大**を招きかねない極めて重大な問題を含んでいます。
- このような制度を導入することは断じて容認できず、**即時廃案**が必要です。
- その上で、**医療の公共性と公平性**を守るための制度設計を改めて構築すべきです。



なぜ保険外しが検討されるの?

自民党、公明党、日本維新の会が国の医療費を最低4兆円削減することで合意しました。「75歳以上の窓口3割負担」や病院のベッド数削減に加えて、OTC類似薬を保険から外す計画もこうした流れの中ででてきました。2025年10月の自民党と維新の会の政権合意でも早期実施が書き込まれました。医療や介護、福祉にかかる費用の抑制が狙いです。

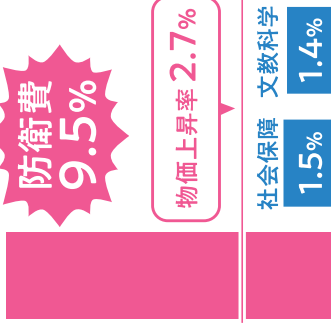
ミサイルではなくケアにお金を

医療や福祉にお金がかかるのはおかしいとして、患者の負担を増やす政策が進められる一方、軍事費は大幅に増えています。しかし、軍事費を削減すれば、福祉にもっとお金をまわすことは十分に可能です。

医療費の高騰が問題だといわれ、「医療費を削減すべきだ」「高額な薬剤への対応が必要だ」といった議論もあります。けれども実際には、医療費の伸びは心配されていないほどではなく、今後も急激に増えることはないという研究もあります。

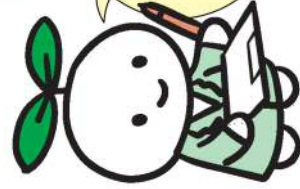
だからこそ、人々の人権とケアを何よりも大切に、事実にもとづいた冷静な議論を行うことが大切です。

25年度予算案の主要経費別の前年度比伸び率



薬の保険外しの先には、軽度の医療の保険外しもあるかも?

患者団体のオンライン署名にご協力を



患者さんたちの署名にみんなが協力して、保険外しをサポートさせよう

日本アトピー協会



難病患者当事者



全日本民主医療機関連合会

〒113-8465
東京都文京区湯島 2-4-4 平和と労働センター7F
TEL:03-5842-6451 FAX:03-5842-6460

ファーマウェーブ第1号リーフ

全日本民医連の病院や保険薬局で働く職員が、薬剤をめぐる諸問題の改善をもとめて取り組んでいます。

OTC類似薬の保険適用除外を

政府は、処方箋医薬品のうち、成分や効能が似通った市販薬品(OTC類似薬)の一部を2026年度から公的医療保険の適用から除外することを検討しています。患者団体だけでなく、日本医師会、薬剤師会も猛反対。なぜこぞって反対しているのか、ポイントについて考えてみましょう。



これでは何のために保険料を払っているのかわからない...

この薬、保険から外れるかも

咳・痰・呼吸器

アレルギー

(花粉症、じんましん、アトピー等)



慢性胃炎・胃潰瘍



かゆみ・湿疹・皮膚炎・保湿



便秘



目のかゆみ・充血



患者負担も大幅増です

風邪薬

ムコダイン錠500mg
1錠=3.19円
1週間分1日3回服用

約70円

5倍

約2,500円

アレルギー薬

アレジオン錠20
1錠=6.7円
24日分

約160円

12倍

約2,000円

皮膚軟膏

リンデロンV軟膏
0.12%10g
1g=5.07円

約50円

40倍

約2,000円

全国保険医団体連合会作成



私えないよ...

OTC類似薬への保険適用を外すことで、胃薬は60倍もの費用負担に。病気のひとにさらに負担を求めるのではなく、必要な医療は保険診療でまかなうべきです。

大阪府保険医協会作成

OTC類似薬の保険外し

まだまだ多くの

危険や懸念

があります!

医療費負担が心配で

受診控えから重症化のリスク

OTC類似薬が保険から外されれば、医師が診療をしても処方できません。胃の痛みを訴えて受診しても、OTC類似薬に該当する薬が処方できないうえにドラッグストアで買ってきた薬も、自己負担は大きく増えます。経済的にも余裕があればOTC類似薬を買えるかもしれませんが、余裕がなければ購入をためらうことになり、医療の公平性は失われます。受診控えで重症化するリスクがあります。



価格高騰や供給のさらなる乱れに

保険から外された薬は、自由に価格設定できるその特性から、製薬会社の大きなものになります。そのため、保険適用される薬で代替しようとして、その薬が不足するという事態も懸念されます。必要のあるOTC薬の価格高騰も懸念されます。

患者さんに薬が十分行き届かないことはもちろん、薬剤師をはじめとする医療従事者にも多大な負担がかかっています。



OTC乱用や副作用のリスクも

OTC類似薬といえど、副作用のリスクはあります。風邪だろうと自己判断でドラッグストアで薬を買って済ませていたら、気付いたときには肺炎で入院というリスクもあります。若者のオーバードーズ(OD)も身近な問題になってきています。薬剤師が介入しづらいこと、健康被害がすすむ危険も。



子ども医療費助成制度や国の難病公費医療のお薬も助成対象からはずされる?

子ども医療費助成制度が多くの自治体で導入されています。OTC類似薬が保険外となることで、薬は助成対象外。

同じことが難病患者の方についてもいえます。医療機関の窓口でのトラブルも予想されます。

国の指定難病 魚鱗癬 ぎょりんせん

20代会社員

保湿剤2種類

薬代 現在

年間 約3万円

かゆみを抑える飲み薬

保険適用外になると

年間 約82万円

OTC類似薬と副作用

成分	副作用件数	重篤なもの	症状
ロキソプロフェン	82	14	発疹、消化管出血、急性腎不全、アナフィラキシー
アセトアミノフェン	55	11	発疹、肝障害、消化管出血、呼吸困難
酸化マグネシウム	30	5	高マグネシウム血症、不整脈、意識障害
芍薬甘草湯	35	6	血圧上昇、低カリウム血症、間質性肺炎
抑肝散	18	4	低カリウム血症、不全総胆管炎増悪
フェキソフェナジン	11	0	発疹、肝障害、排尿困難
デキストロメトロール	10	2	アナフィラキシー、発疹
イブプロフェン	5	0	発疹、胃痛
葛根湯	5	0	発疹、偽アルドステロン症
ロキソプロフェンテープ	7	0	かぶれ、発疹、消化管出血

[全日本医薬連副作用モニター]より OTC類似薬に該当する成分のうち、2020年4月～2025年3月に報告されたもの



「ふたばん」です。よろしくね!
民医連・薬剤師のマスクコトキチャラです!!